

7月、夜空を見上げ、星に祈りを捧げた日は遠く・・・七夕様（棚機）の黄色の短冊に向かって浮かぶ言葉はただ一つ「コロナ禍の中、お互いに声を掛けあって」そう、今こそ人と人との繋がりを大切にしていきたいですね。



梅雨明けが待ち遠しい季節になりました。五色の短冊に真剣に祈りを込めて文字を連ねる、そんな毎日かも知れません。先日、私が校医・産業医を務める高校で「熱中症」についてお話しさせていただきました。例年なら、症状のメカニズムと対策(水分・塩分の摂取)についてお話しさせていただくのですが、コロナ禍のいま、お話は「周囲の気づき」に特に力を入れました。熱中症に限らず、周りの方々が「あれ？〇〇さん、何かいつもと違うなあ」この雰囲気の変化にどう気づくか？病の対策の基本は、**ひとの和**ですね。

【ニュース】

① 診療日の変更

今月の変更はありません。オリンピックの関係で、祭日
が変更されてますので、ご注意ください。

② 秋山沙由里先生が地域医療の研修に来られてます

堺市立総合医療センター二年目の研修医、秋山先生の
研修が6月28日から2週間の予定でスタートしました。
私たちの外来診療陪席や訪問診療同行、さらに訪問
看護ステーションや包括支援センターの方々のご
協力を得ながら、鳳の地域医療の実際を学んでいただ
いてます。先生は愛媛県のご出身です。皆さん、暖か
く見守ってあげて下さいね。

③ 万が一に備えて・・・オンライン診療のご活用を(再掲)

新型コロナウイルス感染症、治まる気配がありません。
不安に思って過ごしておられることと思います。もし、万
が一、感染されて自宅療養(あるいはホテルなどでの療
養)を指示された場合、ミタクリではオンライン診療で対
応することが可能です。お薬を送ることも可能です。「い
つもの治療薬もなく、打つ手なく過ごしています」という
事態は避けることはできます。どうぞご相談下さい。

④ コロナワクチン予防接種受付専用ダイヤル開設

090-6731-4056

【ミタクリ歴史解説～奈良時代の「元祖・新しい生活様式」～】



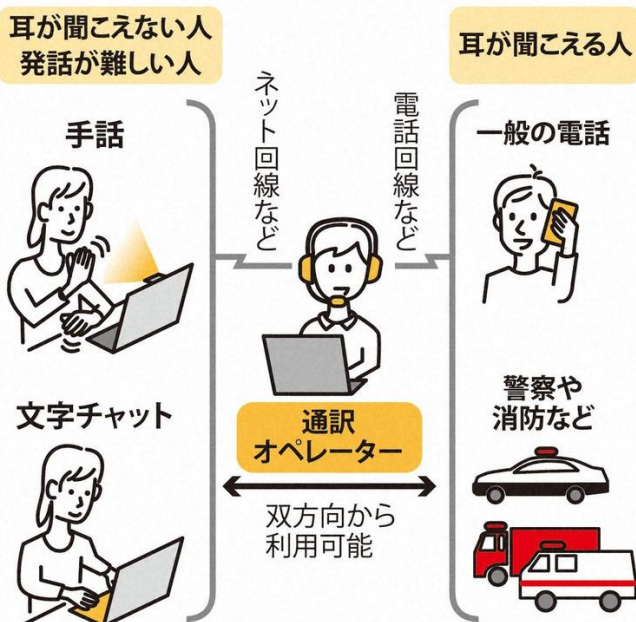
歴史書を繙いてみますと、華やかなイメージの天平時代は、実は疫病の時代でした。735(天平7)年、原因不明の疾病が九州・太宰府で発生し、当時の致死率が国民の25%に至ったと記録されています。737(天平9)年には都(奈良)でも感染が広まり、摂関家・藤原氏の四兄弟が相次いで亡くなり、政治の中枢を失った国は機能がマヒしました。おそらく天然痘と考えられますが、国土が荒れ果てるなか、当時の聖武(しょうむ)天皇は遷都を繰り返し、病退散を祈りました。734(天平6)年から9年の間に、遣唐使のほか、渤海や新羅に行った使節が帰国している記録から、この疾病は、おそらく海外からもたらされたものと考えられますが、推測の域を出ず、特定できていません。

当時の人々の工夫は、出土する土器からみてとれます。奈良文化財研究所の神野恵氏は語ります。「出土する皿のサイズが奈良時代後半になると大型食器が減り、小型食器中心になります。おそらく、**感染予防のために大皿での盛り付けを避けた**と考えられます。また平城京・二条大路から、ほぼ完全な状態の大量の食器が出土しています(写真左)が、当時は**消毒できず、感染防止のために使用済みの食器をまとめて廃棄**したものだと思います。今回の新型コロナウイルスが引き起こした社会状況を目の当たりにして、ようやく説明がつかしました。」その他の疫病に関わる出土品として「土馬(どば)」(写真中央)は、疫病神の乗り物とも言われ、疫病が拡散しないようにわざと足をこわして水に

流すなどとした説もあります。「人面墨書土器(じんめんぼくしょどき)」(写真右)も、器に墨で疫病神や鬼の顔を描き、息を吹き込んで水に流すという風習でした。また、外部から入ってくる疫病を防ぐための祭祀に流すという風習でした。さらに外からもたらされる疫病を防ぐための祭祀「道饗祭(みちあへのまつり)」は、平城京羅城門の少し東にある路上で行っていたことが発掘により判明しています。いわば古代の感染予防法(水際対策?)だったのでしょう。その他の疫病対策として、祈り(読経(どきょう)や祈祷)、租税(そぜい)の免除、湯薬の支給などの施策が講じられました。高齢者や困窮者などに対して朝廷が米や布などを支給する「賑給(しんきゅう)」も行われています。(奈良県HPを参考にしました)

【ヤギの由無し事(よしなしごと) 米本 千春】

電話リレーサービスのしくみ



この1年半、コロナの話ばかりで、情報が入り続けて頭いっぱい、心はどんより、の方もいらっしゃると思います。皆さんは、情報をどうやって取り入れていますか？ テレビや新聞、インターネットという方が多いと思います。直接のやり取りには、会うのが難しいので電話や SNS を使われるかもしれません。外からの情報を取り入れる私たちのアンテナ、センサーはなんでしょう？ 私たちには五感がありますね。視覚(見る)、聴覚(聴く)、嗅覚(嗅ぐ)、味覚(味わう)、触覚(皮膚で感じる)の5つの感覚です。一番大事な感覚は人によって違うでしょうが、視覚や聴覚は大切なので、補うために点字や手話があるのだと思います。

ちょうど7月1日から新しいサービスが開始されました。それは、**「電話リレーサービス」**です。耳が聞こえない人と聞こえる人が

手話の同時通訳などを介して通話できる、国のサービスです。聴覚や発語に障害のある人と、病院・店・人だけでなく緊急の電話とをすぐさまつなげる役割で、24時間365日対応します。図のように、手話や文字を使って情報を伝え、オペレーター(手話ができる人)が間に入ってくれます。ある利用者の感想は、「手話と文字を選んで使いやすかった。新型コロナウイルスで体調への不安もある中、24時間、自分で電話できるので安心感につながる。」予約や急な電話など安心につながるようですね。

耳の聞こえない人が利用するには、事前登録し「050」で始まる専用の電話番号を発行してもらい通話料も要りますが、緊急通報などは無料で利用できます。一方、サービス提供に必要な費用は、皆さんが支払う「電話リレーサービス料」でまかなわれます。[今年度は1電話番号につき年間7円が料金に上乗せされます。このサービスに利用されるのです。]

では、皆さんが電話に出て、「電話リレーサービスです。」と言われたらどうでしょう？ “詐欺の電話”と間違われることがあるそうですので、すぐに電話を切らないでくださいね。また、ここに至るまで2002年から20年の道のりでした。中でも2011年東日本大震災の時、普段から支援を必要とする人たちが被災によってさらに追い込まれ、聴覚障害者には情報が入りませんでした。2013年に日本財団がモデル事業を開始しましたが、希望者が多数、夜間対応や緊急通報ができない、聴覚障害者から一方通行の対応のみなどが理由で、十分にこたえられませんでした。2020年6月5日、

「聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律案」が国会で成立し、今回のサービス開始に至りました。困っている方にお知らせいただき、私たちも利用していきましょう。使った感想などお聞かせくださいね。

電話リレーサービス <https://nftrs.or.jp/>

もう一点。ワクチン…オリンピック…第5波…今のキーワードですね。第4波では入院できず、自宅療養をしないといけない人があふれました。救急車を呼んでも、受け入れてくれる病院がないからと運んでくれず、不安とし

んどいまま自宅で過ごさないといけない現実がありました。ベッドが足りないのが原因でしたので、堺市や病院などは、第5波に向けてベッドを増やす相談をしています。重症になる前に入院できれば、自宅にまで重症患者さんがあふれる事態は減ります。実は、自宅で過ごす軽症や重症の患者さんを見守る手立て、例えば電話で様子をうかがう、ご自宅に往診するなど、も進めつつあります。他の自治体では第3波の時に活動できていましたが、堺市はまだこれからだと思います。

堺市で頑張れることは頑張りたいですが、どうにもならないのは、「ワクチン」ですね。ワクチンを接種する打ち手を増やせ！と国は言っていましたが、実際足りないの

は、システムとワクチンそのものでした。現場は気付いていたのに…これからワクチンを打ちたい方は、まず焦らずに、個別接種・集団接種・職域接種問わずタイミングがあればつかんでください。ワクチンは安心にはなるかもしれませんが、水戸黄門の印籠にはなりませんので、慌てないことをお勧めします。でも、かからない努力はしたいと思います。

画像の引用：2021/07/03 毎日新聞

QRコード：電話リレーサービス <https://nftrs.or.jp/> のページ

【熱海で大規模土砂災害が発生 2021年7月4日 0時41分 NHKニュースより】



静岡県熱海市の伊豆山地区で7月3日土石流が発生しました。県や市によりますと、安否がわからない人はおよそ20人おられるとのことですが、正確な数は把握できていないとのこと。これまでに10人が救助されていて、警察や消防などがさらに救助活動を続けています。

静岡県の川勝知事は3日夕方、記者会見を開き、熱海市の伊豆山地区で発生した土石流について、「およそ20人の安否がわからなくなっているという情報が入っている。避難をしている人も多く、心からお見舞い申し上げます」と述べました。

そのうえで「自衛隊に出動を要請し、消防や警察とも連携して情報収集にあたっている。総力をあげて災害応急活動に取り組む」と述べ、関係機関と連携して被害情報の収集や救助活動に全力で取り組む考えを示しました。

大きな災害が発生しました。犠牲になられた方々にお悔やみ申し上げます。また、安否が不明な方が無事救助されますようにこころよりお祈りいたします。降雨量が今後少なくなっていくとの予報で、避難勧告が出されなかったとのことですが、地盤が緩んでいると雨が一時的にやんでもこのような土石流が発生するわけですね。ニュース映像は、信じられない…のひとことです。急ぎ、堺市西区のハザードマップを広げました。梅雨はまだ明けていません。どうぞ、災害時の対策を改めて確認しておきましょう。

堺市 内水・土砂災害・洪水ハザードマップ (PDF版)

<https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/bosai/kangaeru/pamphlet/bosai/bosaimap23/hazardmap.html>

2021年 クリニックは緊急事態宣言下と変わらぬ診療をいたします。

クリニックの現在の対応について、ご協力よろしくお願いします！

- ① 職員を含めウイルスを「持ち込まない」ように細心の注意を払っています。
クリニック内を1時間半おきに消毒し、常時換気をしています。待合では間隔を空けて座っていただきます。それでも、待合が混雑したら、元気な方にはウォーキングに出ていただくようお願いするかもしれません。
- ② 予約の日であったとしても調子が悪い場合は、すぐに来院せず、先にお電話で相談してください（072-261-1601）。コロナの専門外来に受診すべきか、他の病院に紹介すべきかそこで先に判断します。当院で診察をする場合は、一般の予約の方と時間を分けて、隔離して診察しますので、来院していただく時間を指定させていただきます。
- ③ 当院では新型コロナウイルスのPCR検査はできません。同じように鼻咽頭ぬぐい液を用いる迅速検査（インフルエンザ・溶連菌・マイコプラズマ）を当面中止しています。
- ④ クリニック滞在時間を短くするために、尽力しています。診察時間も意識して短くしています。いままでのような、ゆったりした世間話もできないかもしれません（ごめんなさい）。身体診察の時間も、幾分減るかもしれません。待ち時間が発生するため血液の迅速検査は“どうしてもの場合だけ”に制限させていただきます。質問事項（今回はどういったお薬が必要か、どういった体調の変化があったか、など）や残薬など、あらかじめメモして持参いただけたら助かります。
- ⑤ でも、お困りのことがあれば、ちゃんとお聞きして関係各所におつなぎしますのでご相談ください。「仕事が無くなってお金が入らない」「家賃や公共料金の支払いに困っている」などです。
- ⑥ ミタクリでは2020年5月からオンライン診療（テレビ・電話）を開始しています。利用する上では、機器使用料など、いくつかの条件がありますので、ご希望の方はおたずねください。

【外来担当医一覧 2021年7月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	異 米本	米本 三谷	異(訪問診療) 三谷	異 米本	異 (オンライン可) 三谷	三谷 (オンライン可)
午後 (14:00-16:00)	異 (オンライン可) 米本(訪問診療)	異(訪問診療)	異(予約) 三谷(訪問診療)	異(訪問診療)	異(予約) 三谷(オンライン可) 米本(訪問診療)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷 (オンライン可)	三谷 (オンライン可)		三谷 (オンライン可)	